

政策対話（企画振興部）の概要

1 テーマ

地域と多様に関わる「つながり人口」の創出・拡大について

2 実施概要

(1) 日 時

令和元年7月28日（日）10:00 から 12:15

(2) 場 所

長野市生涯学習センター 第1学習室

(3) 参加者

18名（コワーキングスペース経営者、地域おこし協力隊、二地域居住者、昨年度実施の「信州つなぐラボ」参加者、関心のある一般県民）

県側：企画振興部長、信州暮らし推進課長、地域振興課長、創業・サービス産業振興室長、建築住宅課長

3 対話での意見（概要）

| 区 分 | 意 見 |
|---------------------------------|--|
| あなたが考える地域の課題は何でしょう？ | <ul style="list-style-type: none">・若者、消防団員などの地域の担い手の減少や、人手不足、アイデア不足で現状維持が精一杯。・新たにコトを起こす力がない（弱い）。・仕事がなく若者が都市部へ流出してしまう。・学校の存続・村が今後どうなるのかに不安をもっている。・新しいことをやることへの不安。・地域住民が地元の良さ・財産に気づいていない。・地域が「つながり人口」について理解できる場がない。・自治体が地域のつながりについて、あまり考えていない。・受入側のプレイヤーの育成やコンテンツの創出、発信力強化が必要。・離れていても、地元を応援できるシステムがない（仕組みが弱い）。・変えていきたい住民と変えたくない住民が対立していて、同じ地区でまとまっていない。 |
| つながり人口を増やすためのあなたのアイデアをお聞かせください。 | <ul style="list-style-type: none">・個人の能力（スキル）と場のマッチングが重要。必ず「Do」を生むプロセスを加える。・つながり人口は何か気付かせてくれる。それを地域がどれだけ分かるか、分かろうとするか。・外部人材をどう集めるかではなく、地域の人はどうしたいかを考え、外部をどう巻き込んでいくかが大切。・都会はこうだ、自分はこうだと自己主張する人はダメ。少し歩み寄る。 |

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・新しい田舎をつくる。拡大家族、+α親族。・地元住民や NPO 法人、都市部企業などの官民一体事業を増やす。・解決のコンセプトは、「地域住民と生産活動・仕事を一緒にする人を増やすこと」（消費する場（生活や遊び）だけではない、都市の仕事を持ちこむだけではない）。・地方から SOS を送る。・東京からお客様を呼べる者に事業費をつける。ともに作り上げる時代で、個人のプレイヤーに事業費をつける。・若者は行政らしくない、フランクな場が必要。・日本酒、ワイン、農業、そばなど長野県の資源についての「学びの場」の提供。・アクティビティ+ツーリズム。都会の人を呼んで田舎暮らしの良さを体験してもらおう。お越しいただいた方に喜んでもらえると地元が喜ぶといった好循環を創っていく。・空き家の賃貸。週末のみや日単位で借りられるようにする。・デュアルスクール、学籍簿の移動など学校・自治体・当事者が取り組みやすい仕組みづくりや信州ならではの学びの場が必要。・滞在中の医療レベルの見える化や手続きの簡素化。1 個人 1 カルテを推進し、同様に取り組む他県と相互連携。・学校が大人と接する機会がない。学校をシェアオフィスやコワーキングスペースにすることによる学校の開放。・民泊や旅行業の免許を取得しやすくするとともに、ゆるく信州の魅力を感じてもらうための取組。・第 2 県民を認める。第 2 県民として、移動に関する費用を補助。 |
|---|